

感性や想像力を働かせ、自分なりの意味や価値をつくりだす授業づくり

※『小学校学習指導要領解説 図画工作編』p11、『中学校学習指導要領解説 美術編』p10、「造形的な見方・考え方」を参照。

授業づくりのポイント

※数字は学習の例と対応

- ① 的確に学習状況を見取り、指導と評価に生かすことができるように、指導事項を踏まえて目標と評価規準を設定するとともに、表現や鑑賞の能力を働かせている具体的な児童生徒の姿を想定する。
- ② 児童生徒自らが主題や表したいことを生み出すことができるように、材料や用具を試す、他者と考えを交流する、多様な表現に触れるなどの時間や場を設定する。
- ③ 造形的な見方・考え方を働かせられるように対象や事象を造形的な視点で捉える時間や場を充実させたり、ねらいや造形的な視点に基づいて一人一人の発想や構想を価値付けたりする。
- ④ 鑑賞の学習で学んだことを発想や構想に生かすとともに、発想や構想において学んだことを鑑賞に生かすことができるように、学習の中心を明確にする。
学習の中心については、『R3 南の要覧』 p19参照 ➡

表現及び鑑賞に関する資質・能力を相互に関連させた「造形遊び」の学習の例

小学校第6学年 題材名「ココロの通り道」(全3時間)

- 指導事項
- ・「造形遊び」A表現(1)ア(2)ア
 - ・「鑑賞」B鑑賞(1)ア
 - ・〔共通事項〕(1)アイ

本題材の学習の中心：学校の場所や空間、材料の特徴を基に、表したいことや表し方を考えたり、造形的なよさや美しさなどを感じ取ったり考えたりする。

<活動場面の一部>

表したいことを見付ける場面

- T：この場所(校庭)はどんな場所ですか。
S1：木がたくさんあって、1年生が休み時間にその周りでよく遊んでいます。
S2：木の間から風が吹いていてざわざわ音がします。
T：場所の特徴を生かして、「通り道」を考えてみましょう。
S1：枝に何かを引っ掛けたり吊るしたりして、その下を1年生が心地よく通ることができる「通り道」にしたいです。
S2：風が吹いているから、揺れる形をつくってみたいです。前にも使った軽いビニールのひもで試してみたいです。

思い付いたことを表す場面

- S1：ビニールのひもを飾る高さはこれくらいがいいかな。
S2：もう少し高くしてみたらどうかな。その方が風をたくさん受けやすそうだよ。
S3：飾りはどんな感じがいいかなあ。長さや数を変えるといろいろな感じが表現できるね。たくさん試してから、後で比べられるように写真を撮っておくよ。
T：この「通り道」では、飾り方や飾りの形を工夫して、風をより感じられる工夫をしていますね。
S1：通る人がもっと心地よく感じるためには他にどんな工夫をしたらいいかな…。
T：他の場所の様子を鑑賞して、参考にして見たらどうですか。場所や材料のどんな特徴を生かしているかを考えながら見てみてください。

表現に関わって鑑賞をする場面

- S1：この場所は体育館につながっていて、体育の授業に向かう人や休み時間に遊ぶ人がたくさん通るね。
S2：吊るしたフラフープが通る度に動いて、元気な感じがする。
S3：明るい色のフラフープを選んでいいるから、通る人が明るい気持ちになりそうだよ。
S1：色についてもっと考えてみたら、通る人の感じ方が変わるかもしれないね。
S2：私は奥行きを感じるフラフープの吊るし方を見て、今までと違う飾り方を思い付いたよ。
S3：今鑑賞したことを参考にして、つくりかえたり、新しく思い付いたことを試したりしてみよう。

造形遊びは「つくり、つくりかえ、つくる」という過程を重視し、具体的な作品をつくることを目的にせず、思い付くままに自由につくることを試みるなどの活動です。このような造形遊びの活動の特性を生かしながら指導を工夫します。

造形的な活動を思い付くことができるように、場所や空間、材料と関わる時間を十分に確保したり、材料を十分に準備したりします。特に高学年では前学年まで使用した材料や経験を総合的に生かしたり、新しい方法を組み合わせたりすることができるように配慮します。②

色や形、動きなどの造形的な視点を基に、児童の気付きや発想、構想を価値付けます。学習指導要領解説の「内容の取扱い2(3)」を参考に学年や題材に即して児童の姿を具体的に設定することが大切です。③

I C T端末で児童自身が作品の経過写真を撮影することにより、ポートフォリオとして活用でき、児童が自らの変容を実感することができます。また教師が児童の思考の流れを把握しやすくなり、完成作品やワークシート等の評価資料と組み合わせることで評価の妥当性や信頼性を高めることができます。①

児童の必要感に応じて、学び合う時間を設定し、多様な表現に触れさせることで、児童の見方や感じ方を広げるとともに、活動を更に発展させることができますようにします。②

学習の中心や造形的な視点を基に鑑賞をさせることで、児童が表現する際に考えたり感じたりしたことを鑑賞に生かし、鑑賞で考えたり感じたりしたことを児童の表現に生かすことができますようにします。④